

V320a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用の現状 (5)

内田悠介, 小川翔司, 金丸善朗, 福島光太郎, 米山友景 (JAXA), 寺田幸功 (埼玉大, JAXA), 高橋弘充, 水野恒史, 深沢泰司 (広島大), 信川正順 (奈良教育大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 中澤知洋, 大宮悠希, 大熊佳吾 (名古屋大), 内山秀樹 (静岡大), 久保田あや (芝浦工業大), 田代信, 勝田哲, 本上侑吾 (埼玉大), 寺島雄一, 志達 めぐみ, 善本真梨那, 高木利紘 (愛媛大), 山内茂雄, 太田直美 (奈良女子大), 山田智史 (東北大), 坪井陽子 (中央大), 江口智士 (熊本学園大), 谷本敦 (鹿児島大), 飯塚亮, 海老沢研, 渡辺伸 (JAXA), Matt Holland, Tahir Yaqoob, Chris Baluta (NASA), Michael Loewenstein, 向井浩二 (NASA, UMD), Eric Miller (MIT)

X線分光撮像衛星 (XRISM) は2023年9月7日に打ち上げられて以降、軟X線分光装置 Resolve と軟X線撮像装置 Xtend による観測を行っている。これらのXRISMで観測したデータを観測提案者へ届けるまでには様々な段階を踏む必要があり、適切な手順で進めることが重要となる。そこで我々は、観測計画の立案、観測データの処理、ユーザーサポートや衛星に搭載された検出器の健全性の確認など、XRISM衛星が最大限の科学的成果を出すために取り組む一連の運用工程を科学運用と定義し、これらを“科学運用文書”として文章化してそれに基づき日々活動を続けている。2025年秋講演 (V308a) 以降、Resolve 保護膜解放運用のサポート、2025年10月中旬より始まった第二期目の公募観測に関連した立案やデータ処理、Target of Opportunity (ToO) 観測の受付対応などを行ってきた。これらの活動は国内の科学運用チームだけではなく NASA XRISM Science Data Center (SDC) および Guest Observatory Facility (GOF) といった国外機関や各検出器チームと協力をして行われている。本講演ではXRISMの科学運用に関して現在の状況と今後の活動内容について報告する。